

NURI² 施工ステップ

下地の確認

しっくいを塗る壁や天井の下地を確認します。
下地の種類によって準備する道具やシーラー処理が異なります。

〔NURI2を塗れる下地の種類〕
ビニールクロス／モルタル・コンクリート／石膏ボード／砂壁・繊維壁・京土壁
紙クロス・布クロス／ベニヤ・コンパネ

道具の準備

事前に必要な道具を確認して揃えておきます。
道具の準備不足で、作業を中断することがないようにしましょう。

養生

しっくいが付着しないよう、塗る部分以外を完全に覆って保護します。
仕上げのクオリティを左右する大切な作業です。

下地づくり

下地処理によって、塗りやすくなり、仕上がりに不具合が出ず、
塗った後も長持ちするため手を抜けない重要なポイントです。

シーラー処理

巾木やベニヤからアクが出るのを防ぎ、しっくいの付きを
良くするために欠かせない作業です。丁寧に塗りましょう。

仕上げ

しっくいを塗る本番の作業です。「家族と一緒にしっくいを塗る」
という素敵な思い出になる時間をお楽しみください。

後かたづけ・乾燥

しっくいを塗り終わったら、乾く前に養生を取り除いて換気して
乾燥させます。乾くまでは触らないよう注意しましょう。

家族でぬりぬり!

100%オーガニックしっくい

DIY NURI²

100%Organic"Shikkui"

nuri2.jp

TAGAWA
organic

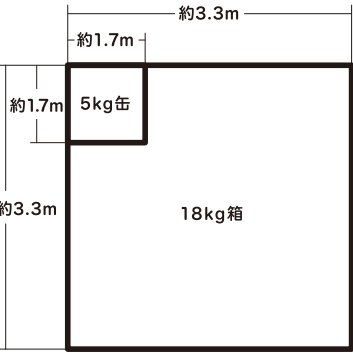
しっくい空間研究所

〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田1924 TEL.0947-44-2240 FAX.0947-44-8484
<https://www.shirokabe.co.jp>



🐾 はじめに

◎使用量の目安(1mm厚で塗った場合)



[NURI²で塗れる面積]
NURI² 5kg缶 = 約3㎡
NURI² 18kg箱 = 約11㎡
例) 幅5m×高さ2.4mの壁を塗る場合: 5kg缶×1+18kg箱×1

!!簡単チェック!!
NURI2サイトの簡易チェックツールでは、塗りたい面の幅と高さを
入力するだけで簡単に必要な量を確認することができます!

[材料早見表] ※ドアや窓の大きさによって、塗る面積は異なります。

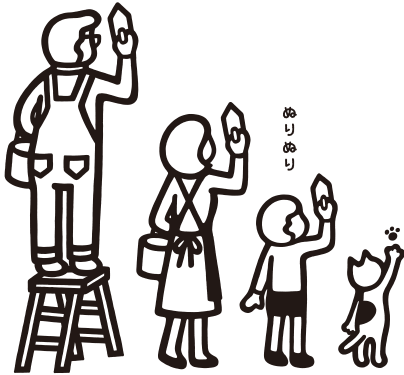
	部屋の広さ	4.5畳		6畳		8畳	
使用量	塗る部分	壁	壁+天井	壁	壁+天井	壁	壁+天井
	塗る面積	約14㎡	約22㎡	約20㎡	約30㎡	約23㎡	約35㎡
	しっくい量	約17kg	約27kg	約24kg	約36kg	約28kg	約42kg
購入目安	本格しっくい	18kg×1箱 5kg×1缶	18kg×2箱	18kg×1箱 5kg×3缶	18kg×2箱 5kg×3缶	18kg×2箱 5kg×1缶	18kg×3箱 5kg×1缶

◎塗る面積を計算しよう

作業の途中でしっくいの量が足りない、時間が足りない、人手が足りない、
とならないように、事前にしっかりと計算しましょう。

[窓がある場合の塗る面積]
A: 壁幅(m)× 壁高さ(m) = 壁面積(㎡)
B: 窓幅(m)× 窓高さ(m) = 窓面積(㎡)
A 壁面積 - B 窓面積 = **壁の塗る面積**

使用量がカンタンにわかるシュミレーターを
WEBサイトで公開中!



🐾 もくじ

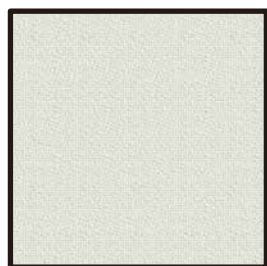
1. 下地の確認	3
2. 道具の準備	5
3. 養生をする	7
3-1. 養生の準備・ポイント	8
3-2. 養生の仕方	9
4. 下地づくり	
4-a. ビニール・紙・布クロス	11
4-b. 石膏ボード	13
4-c. モルタル・コンクリート	15
4-d. 古壁(砂壁・繊維壁・京土壁)	16
4-e. ベニヤ・コンパネ	17
5. シーラーを塗る	19
5-1. シーラーの塗り方	20
6. しっくいを塗る	21
6-1. 塗り方のコツ	22
6-2. 塗り方の基本	23
6-3. 場所別の塗り方	25
6-4. 模様(パターン)をつける	28
6-5. 模様塗り(塗りパターン)	30
7. 後かたづけ	
7-1. 養生の撤収	31
7-2. 材料の廃棄	
7-3. 冬季の乾燥・換気	32
8. メンテナンス&アフターフォロー	33
9. Q&A(よくある質問)	34

1 下地の確認
2 道具の準備
3 養生をする
4 下地づくり
5 シーラーを塗る
6 しっくいを塗る
7 後かたづけ
8 メンテナンス&アフターフォロー
9 Q&A

1 下地の確認

下地の種類によって、準備するものや下地づくりの進め方が異なります。

まずは、塗ろうとしている壁や天井の素材を確認してください。



推奨！

ビニールクロス

【下地づくり→P11へ】

一戸建て、マンション、店舗など既存建物の内装はほぼビニールクロスです。
紙クロス・布クロスとの判断は霧吹きで水をかけてみることで見分けられます。

●水を吸い込まない＝ビニールクロス：上からしっくいを塗ることができます。

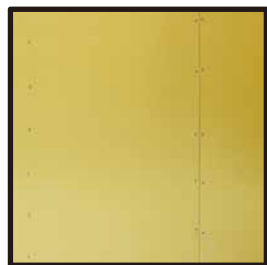


紙クロス・布クロス

【下地づくり→P11へ】

クロスが貼ってあるけれど、ビニールクロスか紙クロスか布クロスかわからないという場合は、
霧吹きで水をかけてみることで見分けられます。

●水を吸い込む＝紙クロス・布クロス：クロスを全部はがしてください。



推奨！

石膏ボード

【下地づくり→P13へ】

新築・リフォームで新たに構築する下地はほぼ石膏ボードで、塗り壁にする場合は特殊な
貼り方をします。
割れにくいしっくい壁にするためには、適切な目地処理と下地づくりが最も重要なので、工務
店や大工さんに相談し、下地処理までをプロに行ってもらうことで割れにくく、長持ちす
る壁になります。



推奨！

モルタル・コンクリート

【下地づくり→P15へ】

鉄筋コンクリート（RC）造で、打ち放しやクロスをはがした場合に見られます。
欠けている部分や、穴があれば埋める必要があります。



要注意！

古壁（砂壁・繊維壁・京土壁）

【下地づくり→P16へ】

築年数が古い家屋に多く使われています。壁についた汚れが原因でアクが出るため、シー
ラーをしっかりと塗ってからしっくいを塗りましょう。
劣化の激しい古壁は、しっくいを塗った後に下地の古壁ごと剥離して割れたり、壁が浮いて
きたりする場合があります。



要注意！

ベニヤ・コンパネ

【下地づくり→P17へ】

下地の大部分は石膏ボードであっても、窓の枠にベニヤが使われていることも多くあります。
ベニヤはアクが出やすいので、シーラーをしっかりと塗ってからしっくいを塗りましょう。

2 道具の準備

全下地共通で必要	小道具	 カッター／ハサミ	袋の開封や、コロナマスカーのカットに使用。
		 バケツ	作業中、コテやコテ板を洗う際に使用。
		 ブラシ	作業中、コテやコテ板を洗う際に使用。
		 ひしゃく	しっくいをすくってコテ板に載せる際に使用。 スコップでも代用可能。
		 雑巾	施工前の壁の掃除や、コテなど洗った道具を拭く際に使用。
		 ゴム手袋	しっくいはアルカリ性で直接触れると肌荒れの原因になるため、 作業時の手の保護に使用。
		 防護メガネ	お子様との作業や天井を塗る際など、 しっく이가目に入るのを防ぐために使用。
		 マスキングテープ	きれいな境界に仕上げられるよう、 塗る面と塗らない面を区切るために使用。
	養生道具	 養生テープ	コードの結束、ブルーシートの固定、 コロナマスカーの貼り付けなど要所で使用。
		 コロナマスカー	テープにビニールシートが付いたもので、 床や家具・家電などの養生に使用。
		 ブルーシート	水が沁みない厚手のものを床養生に使用。 ダンボールでも代用可能。
	塗装道具	 剣先コテ	剣先の部分で隅の方をきれいに塗れる。 初めての場合は、180～220mmの長さがおすすめ。
		 コテ板	簡単な作りのため、自作でも可能。

必要に応じて	小道具	 ドライバー	養生のため、カーテンレール、手すり、コンセントカバーなどを 取り外す際に使用。
		 ゴムベラ	袋に張り付いたしっくいを集めたりするのに便利。
		 足場台	目線より高い位置は塗りにくいため、 天板付き足場台や脚立など足場になるものを準備。
	塗装道具	 ミニコテ	剣先コテが入らないような狭い場所がある場合は、 小さめのコテがあると便利。
		 角コテ	広い面を一気に、大胆に塗りたい時に便利。
		 出隅／入隅コテ	出隅、入隅がある場合は、 専用コテがあるときれいに仕上げる事が可能。

	ビニールクロス	石膏ボード	コンクリート	砂壁	紙クロス	ベニヤ	
○：必ず必要 △：必要に応じて							
 中性洗剤	△						古いビニールクロスがタバコや線香で汚れている場合の清掃に使用。
 カビ除去剤	△						古いビニールクロスがカビで汚れている場合の清掃に使用。
 ジョイントテープ（ファイバーテープ）	△	○				○	ビニールクロスや石膏ボード、ベニヤの継ぎ目処理に使用。
 タッカー	△	○				○	ビニールクロスや石膏ボード、ベニヤの継ぎ目処理のジョイントテープ固定に必要。
 ハンマー	△	○				○	刺さりきれていないタッカーの針を叩き込む際に使用。
 ドライバー						△	ベニヤが浮いている際のビス止めに使用。
 パテ材		○	○	○			溝や隙間、穴などを埋める際に使用。
 パテヘラ		○	○	○			溝や隙間、穴などを埋める際に使用。
 霧吹き				○			砂壁や繊維壁の剥がれかけている部分の除去に使用。
 金属ヘラ				○			砂壁や繊維壁の剥がれかけている部分の除去に使用。
 ハケ・コテバケ・スポンジローラー	○	○	○	○	○	○	シーラーを塗る際に使用。塗り面の広さに応じて道具のサイズを選択。
 シーラーの受け皿	○	○	○	○	○	○	コテバケ・スポンジローラーのサイズに合うものを選択。



コテの選び方

最初に材料を壁に塗り付けていく際はあまりしならない硬い材質のコテ、
その後に材料を慣らしていくときはステンレスなどのある程度しなりのあるものがおすすめ。
大きさは180～220cmのものが使いやすい。

3養生をする

しっくいを塗らない部分やしっく이가付着すると困る部分に養生をして保護します。
養生8割塗り2割といわれるほど仕上がりのクオリティを左右する作業で、
境界線となる部分をしっかり養生することが重要です。

《準備する道具》



マスキングテープ

養生テープ

コロナマスカー

ブルーシート

ハサミ

《養生をする箇所》



床

巾木

窓枠

ドア枠

手すり

コンセント・
スイッチ

エアコン・
換気扇

照明・火災報知器

ブレーカー

【3-1 養生の準備・ポイント】

しっくいを塗る障害になるものは、できる限り取り外してフラットにします。
取り外せないものはしっかり養生しましょう。

《養生する際の注意点》

1. マスキングテープで塗り面の際を整える。(際から1mmあけてマスキングテープを貼る)
2. ビス穴など、しっくいふさいでしまうと後で困る場所もマスキングテープで養生する。

●照明



照明カバーを外す。



照明本体を外す。



シーリングボディを養生。

●カーテンレール・棚・手すり



カーテンレールは外して養生。



ドライバーで金具を外す。
(金具・部品類は保管)

金具のビス穴を
マスキングテープで養生。



Point!

養生用テープ類を貼る前の掃除

マスキングテープを貼る箇所のゴミや木屑を刷毛などで掃除しておきます。
ゴミが残っているとマスキングテープなどが作業途中で剥がれて、失敗の元になります。

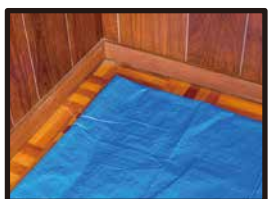
【3-2 養生の仕方】

床の養生からはじめ、巾木、窓枠、コンセントやエアコンと順に進めていきます。
マスキングテープが剥がれないように、貼る箇所は事前にしっかりゴミを取り除いておきましょう。

●床



ブルーシートを床に敷く。



シートと壁の間を10cm程度確保。

●巾木



壁から1～2mm(しっくい
塗り厚の分)隙間をあけて、
マスキングテープを貼る。



マスキングテープの上から
コロナマスカーを壁側へは
み出さないように貼る。



コロナマスカーを床養生ま
で広げる。



コロナマスカーと床養生を
養生テープで貼り合わせて
固定する。

※1.新築・リフォーム工事で床養生がされている場合は、工務店に依頼してそのまま残してもらうのがおすすめ。
※2.コロナマスカーは必要以上に広げず、広げたコロナマスカーと床養生を養生テープで貼り合わせて固定。

●窓枠



巾木と同様に壁から1～
2mm隙間をあけてマスキン
グテープ、コロナマスカーの
順で貼る。



余分なコロナマスカーのビ
ニール部分は巻き込むよう
に窓側に固定する。(落ちて
くるしっくいが入らないよう)

●コンセント



ドライバーでカバーのビスを
取り外す。(金具・部品類は保管)



カバーを取り外す。



コンセント部分を養生テープを直貼りして養生。



●エアコン養生



コードを養生テープでエア
コン本体に貼り付ける。



コロナマスカーをエアコン
本体に直貼りする。



コロナマスカーのビニール
を内側にまとめて養生テー
プで固定する。



Point!

養生を剥がすタイミング

しっくいを塗り終わったら、乾く前にすべての養生テープを剥がします。
完全にしっく이가乾いた後に剥がすと、壁に塗ったしっくいごと剥がれてしまいます。

※しっく이가乾いてしまっても養生テープがきれいに剥がせない場合は、無理に剥がさず、カッターで養生テープを切って丁寧に剥がします。
養生の撤収の仕方はP31を参照。

1	下地の確認
2	道具の準備
3	養生をする
4	下地づくり
5	シーラーを塗る
6	しっくいを塗る
7	後かたづけ
8	メンテナンス&アフターフォロー
9	Q&A

4 下地づくり

【4-a ビニールクロス・紙クロス・布クロス】

紙クロス・布クロスも基本的にビニールクロスと同じ手順で下地を準備する。

一戸建て、マンション、店舗など既存建物の内装はほぼビニールクロスです。
紙クロス・布クロスとの判断は霧吹きで水をかけてみることで見分けられます。

●水を吸い込まない＝ビニールクロス：上からしっくいを塗ることができます。

クロスが貼ってあるけれど、ビニールクロスか紙クロスか布クロスかわからないという場合は、
霧吹きで水をかけてみることで見分けられます。

●水を吸い込む＝紙クロス・布クロス：クロスを全部はがしてください。

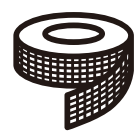
《 準備する道具 》



カッター



ハサミ



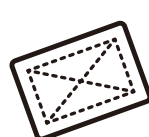
ジョイントテープ



タッカー



ハンマー



雑巾



中性洗剤



カビ除去剤



①タバコや線香、カビなどで汚れている場合は、中性洗剤やカビ除去剤で清掃する。

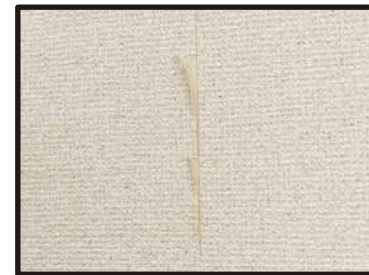
※除去剤を使用した場合は、除去剤の臭いが残らないようにしっかりと拭き取ってから下地づくりをはじめ。



②クロスが貼られている下地がたわんでいないか両手で押して確認する。



③下地がたわんでいる場合は、15～20cm間隔でビスを打って躯体に固定する。



④ビニールクロスの継ぎ目などめくれているところがないか確認する。



⑤キズやめくれているところがあれば、カッターナイフで切り落とす。



⑥クロスを切り取った部分や剥がれているキズにジョイントテープを貼る。



⑦ジョイントテープをタッカーで固定する。



⑧クロスとクロスの継ぎ目もタッカーで固定する。タッカーを打つ間隔は15～20cm程度。



⑨タッカーの針が浮いている場合は、ハンマーなどでたたき込んでしっかり下地にクロスを固定。



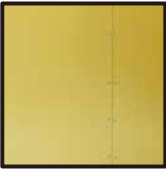
こんな時は！

紙クロス・布クロスが広範囲に剥がれている場合

表面のクロスを剥いだ後に霧吹きで水をかけて裏紙をふやかし、カッターや金属ヘラでゆっくり剥ぐ。

【4-b 石膏ボード】

新築・リフォームで新たに構築する下地はほぼ石膏ボードで、塗り壁にする場合は特殊な貼り方をします。割れにくいしっくい壁にするためには、適切な目地処理と下地づくりが最も重要なので、工務店や大工さんに相談し、下地処理までをプロに行ってもらうことで割れにくく、長持ちする壁になります。



《準備する道具》



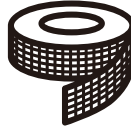
ドライバー



市販のパテ材



パテヘラ



ジョイントテープ

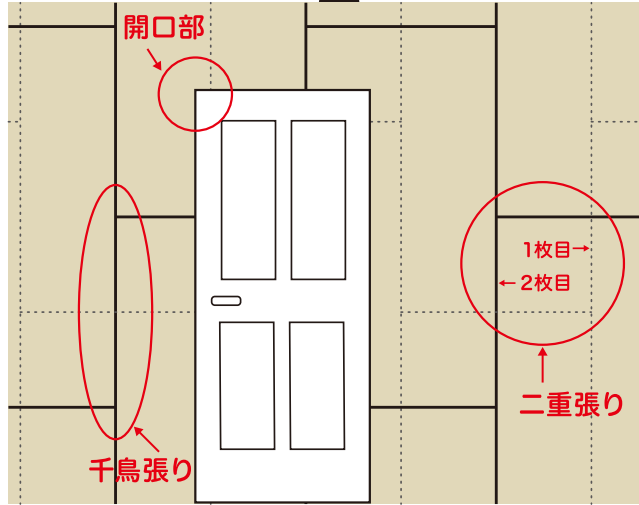


タッカー



ハンマー

●石膏ボードの貼り方



①千鳥張り

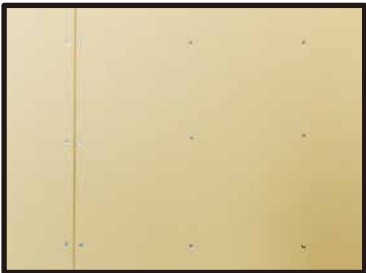
石膏ボードは、継手(つなぎ目)を揃えずに互い違いに貼る「千鳥張り」にします。継手のラインを揃えないことでボードが伸縮した際の動きを少なくできます。

②開口部まわり

開口部の延長線上に石膏ボードの継手がくるとズレの原因になるため、石膏ボードを開口部の形状にあわせてカットし、継手が延長線上にこないようにします。

③二重張り

石膏ボードは二重張りを推奨します。下に張っている石膏ボードに対して、縦横ともに継手の位置をずらし、接着材を全面に塗り付けてステーブル等で固定します。



①ビス頭が飛び出していないか確認。飛び出ている場合はドライバーでねじ込む。



②パテ材でビス頭を埋める。



③パテ材でボードの継ぎ目を埋める。



④余分なパテ材を削り取って段差をなくし、平らにする。



⑤パテ材を埋めて、すべての段差をなくす。



⑥継ぎ目にジョイントテープを貼る。



⑦ジョイントテープをタッカーで固定する。タッカーを打つ間隔は15～20cm程度。



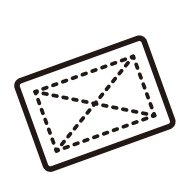
⑧タッカーの針が浮いている場合は、ハンマーなどでたたき込んでしっかり固定。

【4-c モルタル・コンクリート】

鉄筋コンクリート(RC)造で、打ち放しやクロスをはがした場合に見られます。
欠けている部分や、穴があれば埋める必要があります。



《準備する道具》



雑巾



ゴム手袋



市販のパテ材



コテ



コテ板



①古い壁の場合は両手で押してみ、壁が浮いたりしていないか強度を確認する。



②モルタル・コンクリートに付着している汚れ・ホコリ・カビを濡れ布巾で抜き取る。



③欠けている部分や穴がないか確認する。



④欠けている部分や穴がある場合は、パテ材を埋め込む。



⑤余分なパテ材は削り取って段差をなくし、平らにする。



強度チェックで壁が浮いていた場合

壁が浮いたりたわんだりしている場合はヒビや剥離の原因になるため、業者に依頼して下地を作り直す。

【4-d 古壁/砂壁・繊維壁・京土壁】

築年数が古い家屋に多く使われています。壁についた汚れが原因でアクが出るため、シーラーをしっかり塗ってからしっくいを塗りましょう。
劣化の激しい古壁は、しっくいを塗った後に下地の古壁ごと剥離して割れたり、壁が浮いてきたりする場合があります。



《準備する道具》



金属ヘラ



霧吹き



ゴム手袋



市販のパテ材



パテヘラ



①壁の端のほうに霧吹きで水をかけて下地の状態を確認する。



②隅のほうなどで壁が剥げて(崩れて)いるところがないか確認する。



③壁が剥げて(崩れて)いるところがある場合は、金属ヘラなどで取り除く。



④壁を取り除いたところや穴にパテ材を埋め込む。



⑤余分なパテ材は削り取って段差をなくし、平らにする。



下地が水に溶けてゲル状になる場合

壁用ボンドで固めるか、霧吹きで水をかけながらふやかして金属ヘラで全て剥がす。

【4-e ベニヤ・コンパネ】

下地の大部分は石膏ボードであっても、窓の枠にベニヤが使われていることも多くあります。
ベニヤはアクが出やすいので、シーラーをしっかりと塗ってからしっくいを塗りましょう。



《 準備する道具 》



ドライバー



シーラー



シーラーの受け皿



ハケ



コテバケ



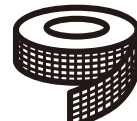
ローラー



パテ材



パテヘラ



ジョイントテープ



ハサミ



タッカー



ハンマー



①下地を両手で押してみてもたわみや浮きがないか確認する。



②下地がたわむ場合はしっくいが割れやすいので、ビス打ちをして補強する。



③他の下地とは異なり、継ぎ目を固定する前にシーラーを塗る。



④一度目のシーラーが乾いたら再度重ねて塗る。シーラーを塗る回数は最低2回、推奨3回。



⑤シーラーが乾いたら、パテ材でビス頭を埋めて平らにする。



⑥ベニヤの全ての継ぎ目にジョイントテープを貼る。



⑦しっくいを塗っている最中にジョイントテープが剥がれてくるのを防ぐため、ジョイントテープをタッカーで固定する。タッカーを打つ間隔は15～20cm程度。

⑧タッカーの針がしっかり刺さりきれていない場合は、ハンマーなどで叩き込む。



美しく仕上げるコツ

ベニヤや木(巾木)は非常にアクが発生しやすいため、しっかりとシーラーを塗ってアクを止めることが下地づくりで最も重要です。

美しいしっくい壁に仕上げるためにシーラーは必ず2度以上塗り、厚塗りにしてアク止めを徹底します。

※シーラーを複数回塗っても、ベニヤによって完全にはアクが止まらない場合があります。

5シーラーを塗る

シーラーを塗ることで下地へのしっくいへの吸い込みを抑えて、均一化することで塗装むらを防止するとともに、しっくいを塗る際の接着剤のような働きもします。

また、アクやシミが浮き出てくる下地の場合は、しっかりとシーラーを塗ることでしっくいにアクが滲み出すのを防ぐことができます。

※アクの滲みを抑えるためにシーラーを塗りますが、完全にはアクを止めることができない場合があります。

《準備する道具》



ゴム手袋



シーラー



シーラーの受け皿



ハケ



コテバケ



ローラー

●シーラーを塗る下地・箇所



①ビニールクロス・紙クロス・布クロス



②石膏ボード



③モルタル・コンクリート



④砂壁・繊維壁・京土壁



⑤ベニア・コンパネ

【5-1 シーラーの塗り方】



①シーラーはよく振ってから、受け皿に入れる。一度のたくさん入れすぎないように注意。



②最初に角や巾木との際など細かな部分を刷毛で丁寧に塗る。



③広い部分を塗り残しがないように大きめの刷毛かコテバケ、スポンジローラーで一気に塗る。



④2時間程度でシーラーが乾いたら、2回目、3回目と厚塗りになるように塗り重ねる。



Point!

細部こそ美しく

床と壁に接している巾木の段差(上の)部分にもしっかりとシーラーを塗りましょう。巾木は木製のことが多いので、巾木からアクが滲み出て巾木に接する壁の下の方が汚くなってしまいます。

1 下地の確認

2 道具の準備

3 養生をする

4 下地づくり

5 シーラーを塗る

6 しっくいを塗る

7 後かたづけ

8 メンテナンス&アフターフォロー

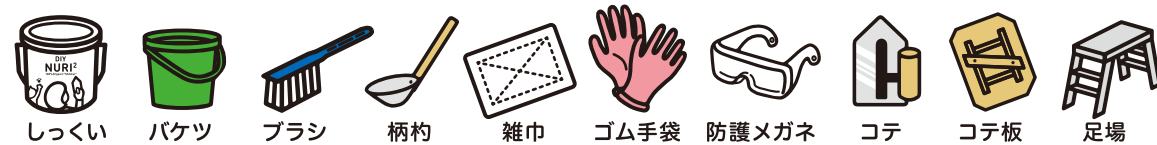
9 Q&A

6 しっくいを塗る

しっくいの主原料である消石灰はアルカリ性のため、直接触れると肌荒れなどの原因となることがあります。

しっくいを塗る際は、長袖・長ズボン、ゴム手袋、保護メガネ、マスクなどを着用し、肌などに付着しないようにしましょう。

《 準備する道具 》



①最初は片足でしっくいの入ったビニール袋を踏んで、少しやわらかくなるまで練る。



②踏む力を弱められるようになったら、ビニール袋いっぱいに広げるように踏む。



③1～2分ほど足踏みし、均一のやわらかさになったら完成。しっくいは踏むほどやわらかくなる。



④ビニール袋いっぱいに踏み広げたしっくいを片足で押して片側に寄せる。



⑤しっくいを寄せた反対側からビニール袋の端をくるくるとしっくいの方に巻いていく。



⑥しっくいの袋を膝にのせ、ビニール袋の端をハサミやカッターで5～7cm程度切る。



⑦ホイップクリームを絞り出すように、バケツに両手でしっくいを押し出す。



⑧しっく이가固すぎる場合のみ、ひしゃくで少しずつ水を加えて調整する。



Point!

ビニール袋の角もしっかり踏む。踏む時は袋が破裂・破損しないように注意。

【6-1 塗り方のコツ】



パターンは決めておく

事前にパターン(塗り模様)を決めて、道具を試しておく。塗り始めてから試すと、パターンが決まる前に、しっく이가乾き始めてしまうこともあるので注意。



1面ごとに一気に仕上げる

一度塗り始めたら、壁や天井の途中でやめたり、休憩したりせずに仕上げる。途中でやめて乾燥すると、塗り継いだ部分が不自然な段差や色差の原因になるので注意。



1回の塗り厚は1～2mm

塗りの厚さは1～2mmを目安にする。一度に厚塗りすると、ひび割れの原因になるので注意。厚塗りする場合は、塗り重ねる。



最初に天井から塗る

しっくいは必ず天井から塗り始める。先に壁を塗ると、後に天井を塗る際の材料が壁に付いて汚れてしまうことがあるので注意。



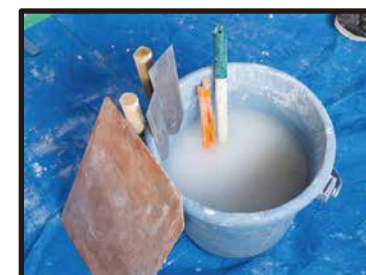
思い切って大胆に塗る

コテを大きく動かして、塗ると決めた面全体に大胆にしっくいを塗り付けていく。細かくコテを動かすと壁全体の一体感がなくなってしまうので注意。



隅の塗り漏れがないかチェック

四隅まできっちり材料を塗ることで完成度を高める。しっかり塗れているかわかりにくい場合は、ライトを当てて隅までしっくいが行き届いているか確認。



道具はこまめにきれいにする

コテやコテ板に固まりかけた材料が残らないようにこまめに洗う。道具が汚れていると、壁に傷が入ったりゴミが紛れる原因になるので注意。

【6-2 塗り方の基本】

●塗り順番 基本は天井から壁。右利きの場合は、左隅から。左利きの場合は、右隅から。



①利き手と反対側の隅、上の方から塗り始めて、天井との際を埋める。



②下へ塗り進めて、ムラができないように気をつけながら壁の隙を塗る。



③隙を塗り終えたら、広く残っている部分を塗り進める。

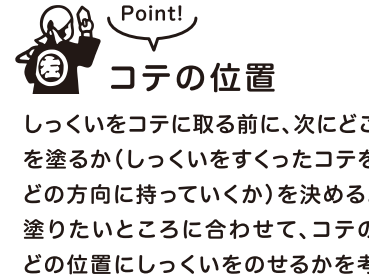
●材料のすくい方 勢いを大切に、思い切ってコテ板を逆さまにしてしっかり材料をコテに載せる。



①コテ板の遠い部分にある材料をコテで切る。



②コテを付けたままコテ板をひっくり返す。



Point!
コテの位置
しっくいを取る前に、次にどこを塗るか(しっくいをすくったコテをどの方向に持っていくか)を決める。塗りたいところに合わせて、コテのどの位置にしっくいをのせるかを考えてすくう。



③コテ板から材料をコテに載せるようにして、上に押し上げてコテ板から離す。



④コテ板から離れたら、そのまま壁に付ける。

●壁の塗り付け方 道具はこまめに洗いながら、思い切りよく大胆に塗り付けていく。



①コテを壁に対して90°に当てる。



②コテを少しずつ上に向かって寝かせながら材料を壁に付けていく。



③2で塗り付けた材料の隣(利き手側)に同じように数列塗り付けていく。



④コテ板に載っている材料を全て壁に塗り付けたら、材料を横へ伸ばす。



⑤進行方向側のコテの刃を1cmくらい浮かせて、スライドさせながら平らにする。



⑥壁にしっかり圧力をかけながら、平らに塗っていく。

●コテの持ち方



隅を塗る場合などのコテの一ヶ所に力を入れる時



際(きわ)を塗る場合や軽く表面をならすなど、あまり力を入れない時



しっかりと押さえながら広い面に塗りつける時

【6-3 場所別の塗り方】

●塗る場所に対するしっくい^①の量とコテ^②の位置

[右利きの場合]塗る場所に合わせた、しっくい^①のをせるコテ^②の位置は以下の8パターン。左利きの場合は、左右逆。



a: 左右の角を埋める場合



b: 左端(際)、下際を塗る場合



c: 左下隅を塗る場合



d: 右上隅を塗る場合



e: 左上隅を塗る場合



f: 右下隅を塗る場合



g: 右端(際)を塗る場合



h: 広い面を塗る場合

●広い面の塗り方

広い面は、塗る範囲を決めて上から順番に分割して塗り進めましょう。全ての隅だけを先に塗る、上下左右の際(きわ)を先に塗って内側に塗り進めるなど、塗る箇所が点在すると乾くスピードが異なり、失敗の原因になります。



●天井の塗り方



①壁との境を養生し、天井と頭の間が10cm程度空くように高さを調節して足場をセッティング。



②隅から始め、天井と壁が接する際にしっかり材料を入れて、手前に引く。



③もう一边からも、コテの先を壁の際に当てながら塗る。



④2辺の際(きわ)を埋めるように塗る。



⑤広いところへ、塗り残しがないように塗り進める。

※隅→利き手と反対側の辺の際→利き手側の辺の際→広いところと塗っていく。

●出隅の塗り方



①出隅コテの先の部分を壁に当てる。



②進行方向の刃を浮かせながら下へスライドさせる。



③普通のコテで両サイドの壁をならす。

●入隅の塗り方



①入隅コテの先の部分を壁に当てる。



②進行方向の刃を浮かせながら下へスライドさせる。



③普通のコテで両サイドの壁をならす。

【6-4 パターン（模様）をつける】

●パターンをつけるタイミング

パターンをつける場合は、壁一面にしっくいを塗り終わった後、パターンがつけやすい乾き具合までしばらく待ちます。気温や天候、下地などによってしっくいの乾くスピードは異なりますので、目立たない足元などを直接触ってタイミングを確認します。



OK

うっすら指の跡が残る

しっくいを塗った壁を指の腹でそっと押してみても、うっすら指の跡が残るくらいの乾き具合がパターンをつけるのにちょうど良いタイミングです。



NG

指の跡が残らない

しっくいに指の跡が残らない場合は、乾きすぎているのでパターンがつけにくい状態です。もう一度うすくしっくいを重ね塗りして再度チャンレンジしましょう。



NG

指にしっくいが付く

しっくいが指に付いてきた場合は、まだパターンをつけられるほど乾いていない状態です。少し待ってから、もう一度触って確認してみましょう。

●簡単にパターンをつける

NURI2は、スポンジや刷毛など、身近なものやしっくいを塗る作業中に使用する道具などで簡単にパターンをつけることができます。

ご家族でどんなパターンをつけるか話し合ったり、お子さまと一緒にしっくいを塗った記念になるような文字や手形を残したり、思い出が詰まった世界にひとつの壁に仕上げてください。



スポンジでパターンをつける

スポンジは凸凹の柔らかい面でも、ガサガサの固い面でもパターンをつけることができます。軽く持って、円を描くように壁をなでたり、同じ方向に流れるような線や波を描くなど、スポンジの動かし方次第で印象の異なる様々な壁に仕上がります。



手でパターンをつける

道具がなくても大丈夫。薄手のゴム手袋をつけて、手で壁をなでるように動かすと凹凸の少ないやわらかな印象のパターンになります。お子さまの手形を残す場合も、手袋をするなど直接しっくいに手をつかないように注意して記念に残るあしらいをつけましょう。

【6-5 模様塗り（塗りパターン）】



ミックス ストロ



スポンジスウィーラー



ペイントブラシ ストレート



アトランダム スクウェア



ミックスカラー



ペイントブラシ ウェーブ



ラフ ボーダー



ナチュラル ボーダー

7 後かたづけ

【7-1 養生の撤収】

養生はしっくい乾く前に取り除きましょう。

しっくいが完全に乾いたあとの撤収では、しっくいが養生と一緒に剥がれてしまったり、養生の材料がしっくいの中に残ってしまったりすることがあります。

※しっくいが乾いてしまって養生テープがきれいに剥がせない場合は、無理に剥がさず、カッターで養生テープを切って丁寧に剥がします。
養生の撤収の仕方はP10を参照。



①養生を引っ張りながら、ゆっくり剥がしていく。



②養生を剥がした際にけげばけがしている場合は、金属ヘラで際を押さえて整える。

【7-2 材料の廃棄】

コテやコテ板を洗ったバケツの水は、そのまま排水口に流すと詰まる場合があります。



①バケツのうわ水のみを排水溝に捨てる。

※マンションなど建物内の排水溝は配管が細く詰まりやすいため、うわ水は必ず建物外の排水溝に捨てる。



②バケツの底に沈殿した材料は不燃物として自治体の規定に従って処分。

③バケツはタワシなどでしっかり洗って乾かす。

【7-3 冬場の乾燥・換気】

気温が低い冬場の施工は、白華（表面に白色が浮いてくる事）、色ムラ、凍結の対策が必要です。

●注意点

乾燥するまで10℃以上の室温に保つ

温度低下による乾燥遅延は白華、色ムラの原因となるため、施工後の夜間も同様に10℃以上に保つよう室温を管理する。また、施工後に室温が5℃を下回り、しっくい内の水分が凍ってしまうと、硬化不良、剥離の原因となる場合があるので注意。

換気・通気で乾燥を早める

室内にこもった湿気を逃がすため、換気・通気を行うことで、乾燥を早めることができる。表面に水分が染み出た状態が続くと、テカりのある状態で仕上がる場合がある。

施工は午前中に終わらせる

冬場は室温を10℃以上に保ちながら午前中に施工し、午後は乾燥の時間に当てるのがおすすめ。

部屋を暖めるのはエアコンで

しっくいが乾燥する妨げにならないよう、湿気の発生しないエアコンで部屋を暖めて、室温を管理するのがおすすめです。ただし、しっくいに直接温風が当たらないようにしましょう。また、石油ストーブや薪ストーブを使用して暖めると、しっくいにススなどが吸着して色味が変わる可能性があります。

8 メンテナンス&アフターフォロー

日常生活を送るなかでできたしっくいのは、
家庭にあるもので簡単にきれいにすることができます。
また、家具や家電製品をぶついたりして壁に穴が空いたり、
欠けたりした場合は新たにしっくいを埋めることで補修ができます。



【色移りなどのちょっとした汚れ】

◎準備するもの：消しゴム

汚れている箇所を消しゴムで根気よくこするととどおり。



【コーヒーの染みなど落ちない汚れ】

◎準備するもの：サンドペーパー

落ちない汚れは、サンドペーパー（400～600番手）で汚れている表面を削って消す。

※まずは消しゴムでこすってみて、落ちない場合にサンドペーパーで削るのがおすすめです。

9 NURI² Q&A

よくご質問いただく項目をまとめました。ここに掲載されていない内容でご不明なことがある場合は、
田川産業までお気軽にお問い合わせください。

Q1 NURI²は珪藻土ですか？

A. 珪藻土ではなくしっくい、消石灰が主原料です。化学合成樹脂などの結合剤を用いず、石灰が硬化する自然の力で丈夫な壁になります。

Q3 初めての作業でも平らに仕上げることはできますか？

A. 平滑な仕上げは職人さんの熟練の技術によるもので、初めての作業には難易度の高い仕上げです。最初はパターン仕上げをおすすめしています。

Q5 色ムラとはなんですか？

A. しっくいの特性として硬化中に色が薄くなっています。硬化が遅いほど薄い色に仕上がるため、塗り厚の差による硬化時間の差が色の違いとして出てきます。

Q7 下地の吸水が激しいのでNURI²に水を足して柔らかくしてもいいですか？

A. 少量の加水であれば問題ありません。18kgのNURI²に対してコップ1杯ずつ程度で少しずつ加水するようにしてください。

Q9 NURI²の上に直接NURI²を塗りなおすことはできますか？

A. できます。しっくいは吸水性が高いので、NURI²の上に直接塗ると水分が取られてうまく塗れませんが、事前にシーラーを塗るか、別途下地調整材を塗ることできれいに塗りなおすことが可能です。詳しくはお気軽にお問い合わせください。

Q2 NURI²で外壁を塗ることができますか？

A. お城や土蔵などのようにしっくいは外壁に塗ることもできます。その際はNURI²に専用油を混練するか、直接雨が掛かる場所にはトップコートを塗布すると長持ちします。詳しくはお気軽にお問い合わせください。

Q4 どの程度の厚みで塗ればいいですか？

A. 下地が透けない程度で約1～1.5mm程度が理想です。厚く塗りすぎた場合は表面にひびが生じることもあります。

Q6 ベニア下地でアクが滲まないようにするにはどうすればいいでしょうか？

A. ベニアによってはシーラーを重ね塗りしてもアクの滲みが止まらない場合があります。アクが止まらない場合は乾燥後にNURI²を重ね塗り（Q9参照）するか、専用の下地調整材を使用する必要があります。詳しくはお気軽にお問い合わせください。

Q8 施工後から完全乾燥までどのくらい時間がかかりますか？

A. 翌日には表面乾燥している（冬場の寒い時期は2-3日）ので普段通りの生活が可能です。表面乾燥後も空気中の二酸化炭素と反応して硬化を続けますので、約1週間は換気を続けるようにしてください。

Q10 余った材料はどのくらいの期間保管が出来ますか？

A. しっくいは空気中の二酸化炭素と反応して硬化します。空気に触れないようにしっかり密封し、直射日光のあたらない涼しい場所で保管すると何年も保管できますので、余った材料は補修用などにとっておくこともできます。

※1 硬くなること ※2 混ぜて練り合わせること